

平成19年度名古屋大学語学学校スクーリング研修を実施

平成19年度名古屋大学語学学校スクーリング研修が、6月19日(火)～12月4日(火)の6ヶ月間にわたり実施されました。

この研修は、今後の更なる国際化に対応した事務職員を養成するため、今年度から実施しているもので、語学学校(イーオン)で実践的な英会話能力を身につける初級コースと中・上級コースの2コースに分けたカリキュラムで編成されており、今年度は各コースに6名が参加しました。

授業は両コースとも前半レッスン・後半レッスンに分かれており、英会話のレッスンでは日常の場面で使う表現を、業務英語のレッスンでは実際の大学業務の場面で使う表現

をそれぞれ学びました。

全ての授業が英語で行われるということで、当初は受講生も不安と緊張の中で受講していましたが、回数を重ねるにつれて流暢な発音とともに積極性も身に付き、活気ある環境の中で、充実した6ヶ月の研修期間となりました。受講生は1月13日にTOEIC試験を受験し、研修成果を測定しました。

今回の受講生がこの研修経験を糧に、業務上語学が必要とされる場面で、リーダーシップを発揮することが期待されます。



初級の集合写真



中・上級のレッスン風景

第34回、第35回防災アカデミーを開催

第34回防災アカデミーが、11月12日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。今回は、中林一樹首都大学東京教授による「東京の防災まちづくりと耐震補強の現状および課題」と題した講演が行われました。

東京は1923年の関東大震災で壊滅的な被害を受けており、地震とその後の火災への備えは都市計画の観点からも最重要課題と位置づけられてきました。講演では、防災まちづくりや耐震補強の推進について、東京都が展開しているさまざまな震災対策がひとつひとつ丁寧に紹介されました。さらに、その対策がどのように相互に関連するのかについての解説もあり、長期的なビジョンにたった震災対策

の全貌を知ることができました。

続いて、12月7日(金)には、第35回防災アカデミーが開催され、中島正愛京都大学防災研究所教授(防災科学技術研究所・E-ディフェンスセンター長兼務)による「強く安全な建物をどう造るか—技術開発の検証としての役割をもつ構造実験」と題する講演が行われました。

阪神・淡路大震災で多くの建物が破壊され、その結果、たくさんの人命が失われたことを受けて、実物と同じつくりで大きさも同じである建物を揺らして実験できる「E-ディフェンス」の整備が国家プロジェクトとして進められてきました。この講演では、実物大の構造実験を行うことの

意義や、整備された巨大振動台の概要、実験台を使って行われた様々な実験成果が多くの動画を交えて紹介されました。



講演する中林首都大学東京教授



講演する中島京都大学教授



92名の聴衆でいっぱいになった第35回防災アカデミーの会場

三重県大紀町錦地区において津波被災交流会を開催

●大学院環境学研究科

大学院環境学研究科は、12月6日(木)、三重県大紀町と協力して、同町錦地区において津波被災交流会を開催しました。これは独立行政法人科学技術振興機構の地域科学技術理解増進活動推進事業「機関活動支援」に採択された「スマトラ津波被災交流と緊急地震情報による津波防災意識の向上」の一環として開催されたものです。

錦地区は、昭和19年12月7日に発生した東南海地震による津波によって、死者64人という大きな被害をこうむりました。近年、津波避難タワーを建設するなど、独自の津波避難対策を推進しています。今回は若い世代が実際の津波

被災体験を知ることを中心に、2004年12月のインド洋巨大津波で大被害を受けたインドネシア国バンダアチェから2名の学生を招き、小学校および中学校で体験談を語ってもらいました。講演には本学の研究者が日本画家と協力して製作を進めている防災教材も活用し、講演後には多くの質問も出ました。

翌7日(金)には、毎年行われている津波避難訓練にバンダアチェからの2名の学生たちが参加しました。地区の一般家庭に外国人が滞在しているという設定で訓練を行い、津波警報を伝える防災無線のサイレンを合図に、町内の高台に設置された避難所へ徒歩で避難しました。また、警報が解除されるまでの間、高台にとどまることや、避難所の非常備蓄品に何が備えられているかなど、津波常襲地帯の知恵を実践的に学びました。



錦中学校における津波被災交流会の様子



津波避難訓練に参加するバンダアチェの学生たち

市民公開講座「知っておきたい甲状腺の病気」を開催

●環境医学研究所

環境医学研究所は、12月9日(日)、野依記念学術交流館において、中日新聞社との共催により、市民公開講座「知っておきたい甲状腺の病気」を開催しました。

この講座は、一般にはあまり知られていない甲状腺の病気をテーマとして取り上げ、市民向けに紹介しようとするもので、当日は100名を超える受講者がありました。開講

にあたり児玉環境医学研究所長からあいさつがあった後、神部福司同研究所准教授による「甲状腺とは？そしてその働き」と題する講演を皮切りに、村田善晴同研究所教授による「大人の甲状腺の病気にはどのようなものがあるか」、今井常夫医学部附属病院乳腺・内分泌外科科長／講師による「甲状腺にできる腫瘍（特に癌）についての正しい知識」、山下俊一長崎大学医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設教授による「チェルノブイリ原発事故から20年：甲状腺癌の実態」及び浜田昇すみれ病院院長による「『体調がすぐれない?』-あなたも甲状腺の病気かも」と題する講演があり、その後のパネルディスカッションでは、活発な質疑応答が行われました。



活発な質疑応答が行われたパネルディスカッション